マテリアリティ

保土谷化学グループは、経営理念に基づいた事業活動を通じて、社会課題の解決に貢献しております。今回、事業に大きな影響を与える社会課題からマテリアリティを特定し、具体的な数値目標を設定しました。

新・中期経営計画「SPEED 25/30」で策定した「2030年度のありたい姿」とともに、中長期的な事業課題として全社をあげて取り組んでまいります。

STEP 1
社会への影響が大きい外部環境の変化を特定

STEP 2
外部環境の変化による事業への影響を特定

STEP 3
保土谷化学が解決にむけ重点的に取り組むべき課題を特定

外部環境認識	マテリアリティ	2030年度のありたい姿	取り組み	KPI	貢献するSDGs
地球環境	気候変動への対応	農業生産性向上、土壌改良に貢献する	過酸化物の農業資材への展開	—	2
		水産資源減少対策として養殖に貢献する	サカナガードの拡販・普及	—	14
		グリーンポリオールへの展開を進める	バイオPTGの展開	—	13
		エネルギー使用量、CO_2排出量(総量、原単位)および水資源使用量の削減が進み、社会に貢献している	省エネルギー・省資源の推進	CO_2排出量、排出原単位	7, 9
	大気・水・土壌環境の保全	環境負荷削減(CO_2削減、化学物質排出抑制、廃棄物削減等)を推進し、社会から評価されている	環境負荷削減の推進	SOx、NOx排出量 廃棄物発生量	12, 13, 14
		湖沼浄水による飲料水確保に貢献する	過酸化水素の新用途展開	—	6
	製品・化学物質の安全確保	化学物質に関する各国の規制法令を遵守し、化学物質が適正に管理されている	化学物質管理の充実	レギュレーション違反ゼロ	12
		環境や社会に貢献する製品を開発し普及させ、取引先から評価されている	新規製品開発、次世代テーマ開発	—	9
社会	製品の価値および信頼性の向上	安全で高品質な製品の供給を継続し、取引先から評価されている	安全で高品質な製品の供給	品質トラブルゼロ	12
		DXを支える、環境に優しいインフラ材料を提供する	電子デバイス材料、電子デバイス機器材料の拡大	—	7
		調達方針に基づき、取引先とともにCSR活動を推進する調達を実施する	サプライチェーンにおけるCSRの推進	—	8, 17
	健康維持への貢献	製品が感染症への対処に広く利用されている	過酸化水素誘導体、ホスゲン誘導体等の展開	—	3
	コミュニティへの貢献	事業所における社会貢献活動を推進し、地域において理解・評価されている	地域貢献活動の推進	貢献活動数	4, 11, 17
人(会社と組織)	働きがいの向上	役職員全員が働きがいを実感している	エンゲージメント向上の継続的な施策実施	エンゲージメントスコア	8
	ダイバーシティの推進	多様な人材が活躍している	人材育成・活性化プログラムの推進	従業員に占める女性比率 女性従業員管理職比率	5, 8
	健康経営、労働安全衛生の推進	ワークライフバランスが推進され、仕事と生活(育児・介護を含む)の両立が図られている	健康経営の推進	健康経営優良法人の認定 有給休暇取得率 リフレッシュ休暇取得率	3, 8
		無事故・無災害を継続し、社会から信頼されている	労働安全衛生・保安防災の徹底	休業災害ゼロ	3, 8
	人権尊重理念の実践	社内外での人権侵害がない	人権啓発活動の推進	FTSE Russell評価	8, 16
ガバナンス	コーポレートガバナンスの充実	「守りのガバナンス」と「攻めのガバナンス」を両立し、成長を持続している	コーポレートガバナンスの向上	—	8, 9, 12, 16, 17
	コンプライアンスの浸透	コンプライアンス意識が浸透し、変化する社会規範に対応している	コンプライアンス意識の浸透	—	
	リスクマネジメントの徹底	リスク領域の損失を最小化し、リスクと裏腹の関係にあるチャンスを発見し、事業機会・収益機会につなげている	幅広く精緻なリスク認識・評価と適切なリスク軽減策	—	